
メンバーアウトドアヴィレッジるもい基本計画

令和6年4月

留萌市

目 次

1. 背景	1
2. 全体コンセプト	4
① 雄大な自然が楽しめるアウトドア観光の拠点づくり	
② 道の駅るもいと周辺エリアの魅力向上	
③ カーボンニュートラル、環境保全意識の向上とエコツーリズム	
④ 7つのミッションを実践できる場所	
3. 全体土地利用計画と施設イメージ	6
① アウトドア・アクティビティ拠点施設	
② ヴィレッジエリアの活用・整備の方向性	
③ 既存施設の活用・整備の方向性	
4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画	12
① 配置図	
② 平面図	
③ 立面図	
④ 面積表	
⑤ 拠点施設の機能、役割	
5. 概算事業費	24
① アウトドア・アクティビティ拠点施設整備 概算事業費	
② 整備手法・財源	
6. 拠点施設の管理・運営方法	26
① 管理・運営主体	
② ランニングコスト(見込み)	
7. 事業スケジュール	28
8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果	29
① 地域への効果の最大化のイメージ	
② 定性的効果の整理	
③ 定量的効果の整理	
④ 企業と地域との共創、政策連携	

1. 背景

一方で基本構想は、市民利用が定着している芝生広場など、現在の船場公園を大きく改変する内容であり、以下のような課題があると認識しています。

- 基本構想の配置計画では車両進入動線が明確ではなく、利便性、安全性に配慮した動線計画の検討が必要です。
- コテージ棟を含むキャンプ場の規模や配置について、整備事業費、維持管理費とのバランスを考慮した再検討が必要です。再検討にあたっては、周辺景観や既存の屋内交流・遊戯施設、芝生広場やパークゴルフ場、ドッグラン及びJR駅側のまちなかとの連携・つながり、冬期間の運営エリア、除排雪などを考慮することが必要です。
- 公園内に整備済みの雨水配水管が広範囲で再整備が必要となる可能性があり、整備費の増大が懸念されます。
- パドル体験施設など、臨港地区の活用にあたっては、現在の港湾機能の代替場所が必要となり、北海道開発局及び漁業関係者との継続的な協議が必要です。

これらの課題への対応を図るとともに、留萌市の財政状況を考慮し全体事業費の抑制を図るため、**基本構想の内容を見直したうえで、基本計画として作成**するものです。

【概要版】留萌市観光グランドデザイン

目的

留萌市を中心に留萌管内全体を見据えて、アウトドア資源の現状や課題を調査し、管内全体に散らばる自然資源を掘り起こし、留萌市及び管内ならではの地域特性を活かしたアウトドアツーリズムによる観光振興策の提案

アウトドア観光の発展を目指す上で、管内における留萌市の位置づけ・役割の明確化。管内に属する近隣自治体と連携した広域観光の推進に必要な事業検討

留萌市観光グランドデザイン 基本方針 コンセプト

雄大な自然が楽しめる留萌管内の“港”となるアウトドア観光の拠点

課題

1. アウトドアを気軽に楽しめる場が少ない

- ・自然と触れ合いながらアウトドア・アクティビティを楽しめる場所が限定的
- ・整備不足や情報発信の不足

2. 来訪者が気軽に宿泊・滞在できる施設が不足

- ・来訪者が周囲の自然や景観を楽しみながらもゆったりとした時間を過ごし、利用者の多様なニーズに対応できる宿泊施設が不足(管内全体)

3. 広域連携を進める上で、核となる拠点が不足

- ・ゲートウェイである留萌市に、管内に点在する魅力的な自然資源を生かし、アウトドア誘客を進めるための発信基地が不足

4. アウトドアツーリズムの受け入れ態勢の不足

- ・各種観光マップやウェブサイト等での情報発信に対し、看板や標識等の整備が不十分

5. 自然資源、観光資源が面的につながっていない

- ・“点”の資源を“面”で捉えていない

効果

- ・本格的なアウトドア・アクティビティを目的にした観光誘客の増加
- ・地域住民のアウトドア機運の醸成、健康増進
- ・道の駅るもいの充実、ゲートウェイ機能の強化
- ・管内全体の活性化
- ・地域の自然資源の再認識

施策

1. フィールドの整備

- ・アウトドア・アクティビティを楽しむフィールドとしての磨き上げ、課題整理(老朽対策、楽しみ方の提案、導線標識の確保、通年活用など)
- ・サイクリング(ポタリング)ルートの設定



2. アウトドア観光の核となる施設整備

- ・管内のアウトドア観光の拠点施設として、ゆったりとした宿泊滞在可能な空間や、全体のフィールドやツアー等の観光情報の集積、アウトドア用品の購入、体験可能な施設を、道の駅るもい、船場公園に整備



3. 広域周遊型のアウトドア観光の推進

- ・管内全体として発信するための、広域でのサイクリング・アクティビティルートの設定と「ジャパンエコトラック」を活用した広域イベントの展開

4. プロモーション展開

- ・モンバルとの連携によるプロモーション展開(モンバルクラブの活用や、フレンドエリア登録など)

モンバルとの包括連携協定にもつながるアウトドアの基本理念の実現

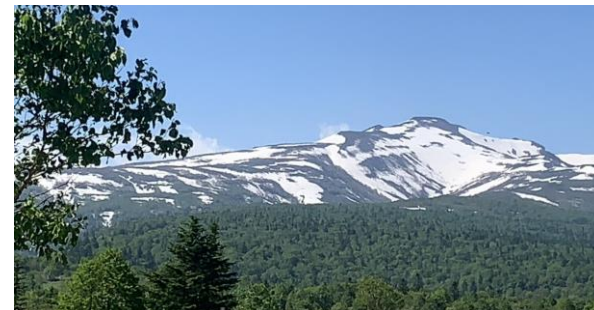
- ①自然体験の促進による環境保全意識の醸成
- ②野外体験を通じて生きる力をはぐくむ
- ③自然体験の促進による健康増進
- ④防災意識と災害対応力の向上
- ⑤エコツーリズムの促進により地域経済の活性化
- ⑥農林水産業の活性化
- ⑦高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進

+

2. 全体コンセプト

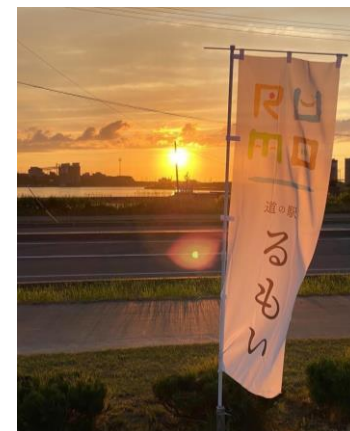
① 雄大な自然が楽しめるアウトドア観光の拠点づくり

本格的かつ唯一無二のアウトドアフィールドが留萌管内にあることから(暑寒別天売焼尻国定公園、天塩川、天売島、日本海オロロンラインのロングサイクルルートなど)、その起点、拠点に位置する留萌市において、管内広域も含めたアウトドアフィールドの案内や観光情報の発信、アウトドア用品の紹介や販売、ツアーデスクなどのビジターセンター機能を整備し、さらには、市内における様々なアウトドア・アクティビティを、市民も含めて幅広く気軽に体験できる環境を整えます。また、アウトドアは季節を問わずに楽しめるアクティビティであるため、海水浴を中心とした夏の一時的な通過型観光からの脱却と、将来的には、アウトドアヴィレッジ内に滞在型施設の整備も検討し、通年での誘客に繋げていきます。



② 道の駅るもいと周辺エリアの魅力向上

道の駅るもい及びその背後に広がる船場公園は、国道、高規格道路、また、旧JR留萌駅にも隣接する交通の要所に位置し、「重点道の駅」に認定され、開業後は、留萌市における集客の核となっています。JR留萌本線が廃止となったことから旧駅前市街地と船場公園の行き来が可能となり、今後、市街地とも一体でエリアの魅力を高め、人の流れを生むような仕組みが必要となります。道の駅るもいが、アウトドア観光の核として、観光客の目的地へと発展させ、ゆっくりと滞在しながら旅のプランを練ったり、くつろいだりできる上質な空間として、さらなる魅力の向上に繋げていきます。



2. 全体コンセプト

③ カーボンニュートラル、環境保全意識の向上とエコツーリズム

アウトドアに身を置くことで、自然の大切さや恵みを実感でき、トレッキング、アウトドアと絡めた地域での森づくりの推進、ロゲイニングなどの野外スポーツの実践など、るもい型のエコで、サスティナブルなツーリズムを発案しながら、幅広い年齢層が自然と環境を体感できる取り組みを進めていきます。また、留萌沖での洋上風力発電事業の機運が高まり、日本海の風況を活かした再生可能エネルギーによる余剰電力の利活用なども期待できます。



※ロゲイニング:地図、コンパスを使って、市街地や山野に多数設置されたチェックポイントをできるだけ多く制限時間内に回り、得られた点数を競う野外スポーツ。



④ 7つのミッションを実践できる場所

モンベルが掲げるアウトドア・アクティビティが持つ社会的使命として、7項目を実践できる場所を目指します。

基本的な考え方(7つのミッション)

SINCE 1975
mont-bell

1. 自然体験の促進による**環境保全意識**の醸成
2. 野外体験を通じて**生きる力**をはぐくむ
3. 自然体験の促進による**健康増進**
4. **防災意識と災害対応力**の向上
5. エコツーリズムの促進により**地域経済の活性**
6. **農林水産業の活性化**
7. **高齢者、障がい者等**の自然体験参加の促進

留萌市のポテンシャルを引き上げ、今後進むべき施策に合致。

3. 全体土地利用計画と施設イメージ

「モンベルアウトドアヴィレッジるもい(仮称)」(以下「アウトドアヴィレッジるもい」に省略)は、道の駅るもい内における広大な敷地を活用し、留萌市及び留萌管内におけるアウトドアを推進する拠点として、管内全体のフィールドやツアーなどの観光情報の集積、発信のほか、実際にアウトドア体験や、アウトドア用品の購入、さらには、本施設から発着できる周遊ルートの設定、道路を挟んで留萌港を目の前に、休憩や滞在、アクティビティの体験が可能な環境を整備し、来訪者や市民が気軽に体験できる「楽しみ」を提供します。

また、今後、アウトドアヴィレッジ内のフィールドを活用し、宿泊できる滞在型施設やキャンプステイのほか、既存の屋内交流・遊戯施設「ちゃいるも」とも連携しながら、親子や家族連れに優しく、安心して時間の過ごせる環境を提供します。



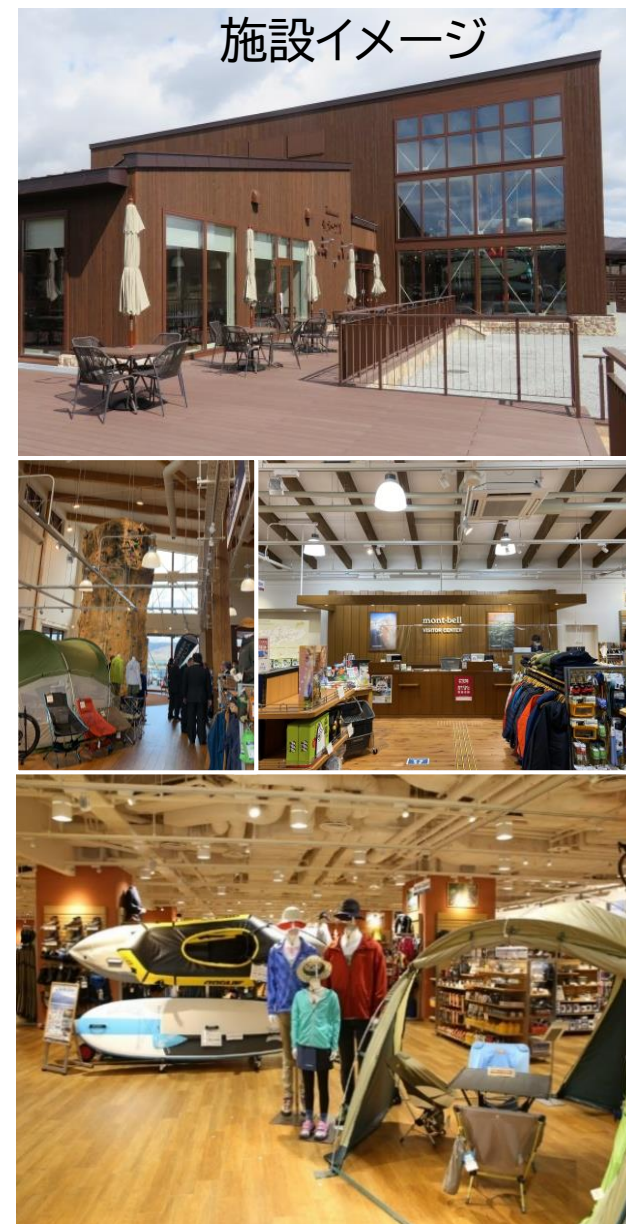
3. 全体土地利用計画と施設イメージ



3. 全体土地利用計画と施設イメージ

① アウトドア・アクティビティ拠点施設

- 留萌市及び留萌管内で「アウトドア」を楽しむ情報拠点として、観光案内やアウトドアヴィレッジ内でのアウトドア体験のほか、ツアー商品などの紹介、アウトドア用品のレンタルの受付などを行うビジターセンター機能を有する施設として、「アウトドア・アクティビティ拠点施設(以下「拠点施設」に省略)」を整備します。
- 拠点施設内には、国内屈指のアウトドアブランド企業である(株)モンベル直営のテナントを誘致し、アウトドア関連商品(登山、キャンプ、カヤック、サイクリング、釣りなど)に加え、機能性の高い農業、林業、漁業者向けの作業着も取扱うなど、留萌地域に根差した商品構成が可能な、地域に貢献できる店舗を配置します。
- ビジターセンターやアウトドア用品の物販機能が一体となって、船場公園利用者の利便性向上を図り、公園の賑わいや憩いの場となる新たな集客機能として、アウトドアヴィレッジのコンセプトに合った飲食・物販店舗を併設します。
- 拠点施設の配置場所については、今後、整備が検討されている「新交流複合施設」との有機的連携や、歩行空間の整備によりエリアの一体感の創出を期待し、当初構想で示した位置から配置を変更します。



写真は南富良野町道の駅複合商業施設内
モンベル南富良野店

3. 全体土地利用計画と施設イメージ

② ヴィレッジエリアの活用・整備の方向性

1) ヴィレッジエリアA

- 拠点施設に隣接し、デッキ上での休息や飲食場所の提供のほか、旧鉄道施設用地と一体的に、旧JR留萌駅跡地までの歩行空間の整備のほか、蒸気機関車など鉄道遺構を活用した魅力づくり、子どもたちが屋外で楽しめる要素を取り入れた施設など、市民の皆さんのアイデアもいただきながら後年度の整備について検討します。

2) ヴィレッジエリアB・C

- Bエリアでは、RVパークとしての将来的な利活用も視野に、当面、車両乗り入れによるオートキャンプでの試験的な運用や、手ぶらでキャンプを楽しめるようなレンタルなども検討します。Cエリアについても、将来的には宿泊可能な滞在型施設が整備できるよう、立地誘導も視野に入れ検討します。

3) ヴィレッジエリアD

- Dエリアでは、道の駅でレンタルしたライフジャケットにより安全を確保した上で、釣りや釣り客をターゲットとしたキャンプ、海を見ながらのアウトドアBBQなどを楽しめるエリアとして検討し、漁業関係者と協議します。

3. 全体土地利用計画と施設イメージ

③ 既存施設の活用・整備の方向性

1) 芝生広場(多目的広場)・ドッグラン・築山・パークゴルフ場

- 中央に位置する広大な芝生広場は、基本的に現状を維持しながら、市民や来訪者の憩いのスペースとしてフリーに開放し、園路ではアウトドアウェアを身にまとい、ウォーキングやロゲイニングなどのアウトドアスポーツが楽しめる空間として活用します。
- また、モルック※体験会やチェアリング※、手ぶらキャンプ、公園を使ったアウトドアBBQなど、公園の集客力を高めるアクティビティや、犬用のフットウェア、ハーネスなどのアイテムを調達して、専用ドッグランで楽しむことができます。築山・パークゴルフ場も現状の利用形態を維持していきます。
- 冬季はスノーシューのレンタルや、イグルーづくり、地吹雪体験などのアクティビティが体験できます。

2) 駐車場

- 現在の北側大型専用駐車場(国整備)と中央の普通車専用駐車場のほか、国道向かいに新たに大型普通車兼用の第2駐車場を整備し、令和6年春に供用開始する予定です。また、拠点施設前に新たな駐車場を整備し、現在の道の駅駐車場と連絡通路により接続させることも検討します。

※モルック:フィンランドのカレリア地方の伝統的なキョッカというゲームを元に1996年に開発されたスポーツ

※チェアリング:野外の好きな場所に出掛け、コンパクトに持ち運びできるアウトドアチェアに座って自由に楽しむ遊び

3. 全体土地利用計画と施設イメージ

③ 既存施設の活用・整備の方向性

3)管理棟

- 現在の休憩機能、貸館機能は現状を維持し、観光案内機能については、拠点施設内のビジュアルセンターへ移管することも含め、拠点施設と管理棟の役割分担や来訪者の利便性を考慮した検討を進めます。また、レンタル用具などの保管スペースとしての活用も検討します。

4)ちゃいるも

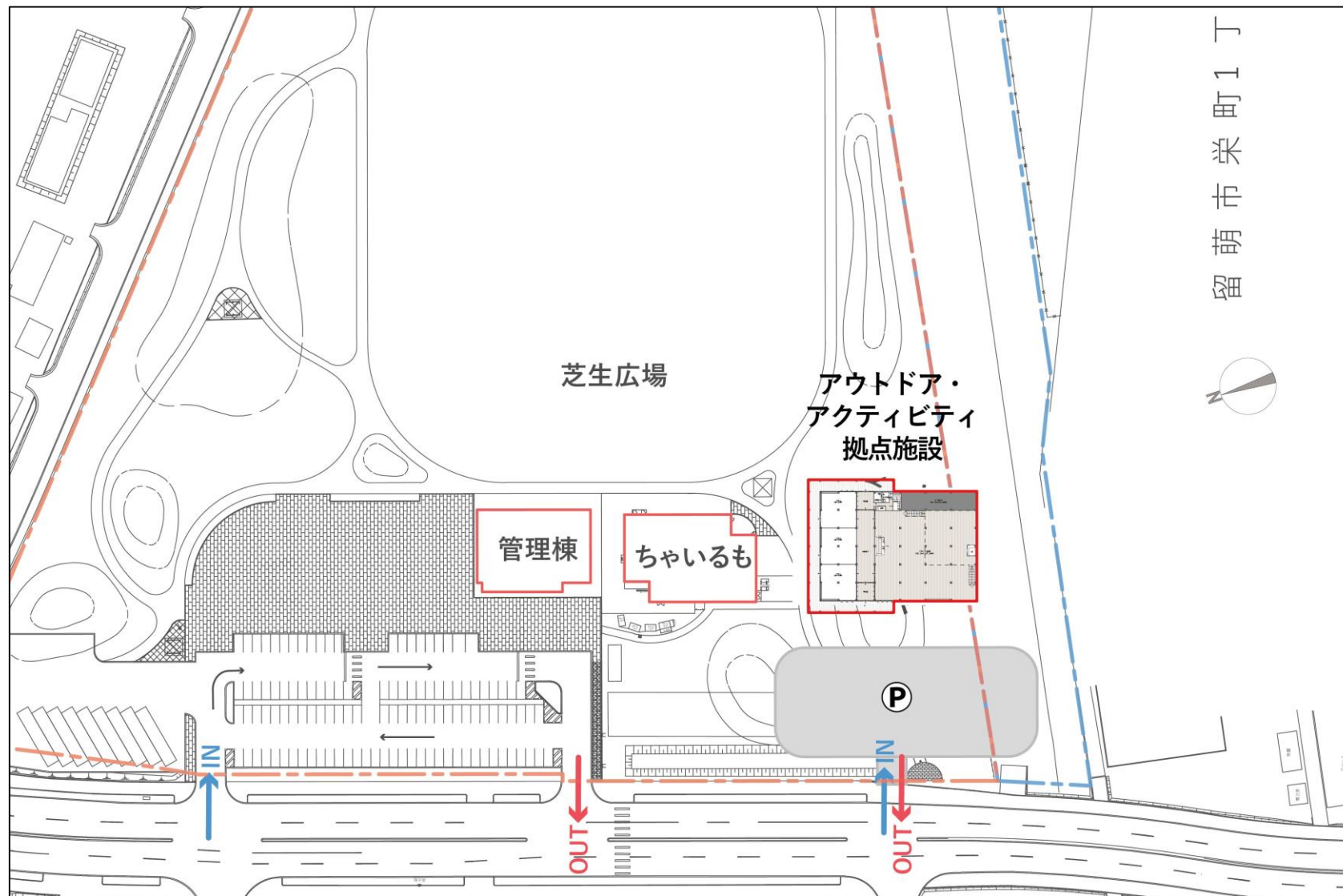
- 現在の屋内で親子で楽しめる遊戯機能を維持し、拠点施設やヴィレッジエリアの活用・整備と連携し、幅広い多様な世代が楽しめる環境を提供します。

5)その他

- 道の駅、留萌港、第2駐車場の一体的運用を図るため、国道への横断歩道設置に向けて関係機関と調整中です。また、道の駅前の国道231号が無電柱化推進計画の着手予定箇所になっています。無電柱化により、道の駅前の電柱倒壊リスクの回避や、夕陽景観や留萌港への視認性が高まり、安全な歩行空間の確保が期待されます。

4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

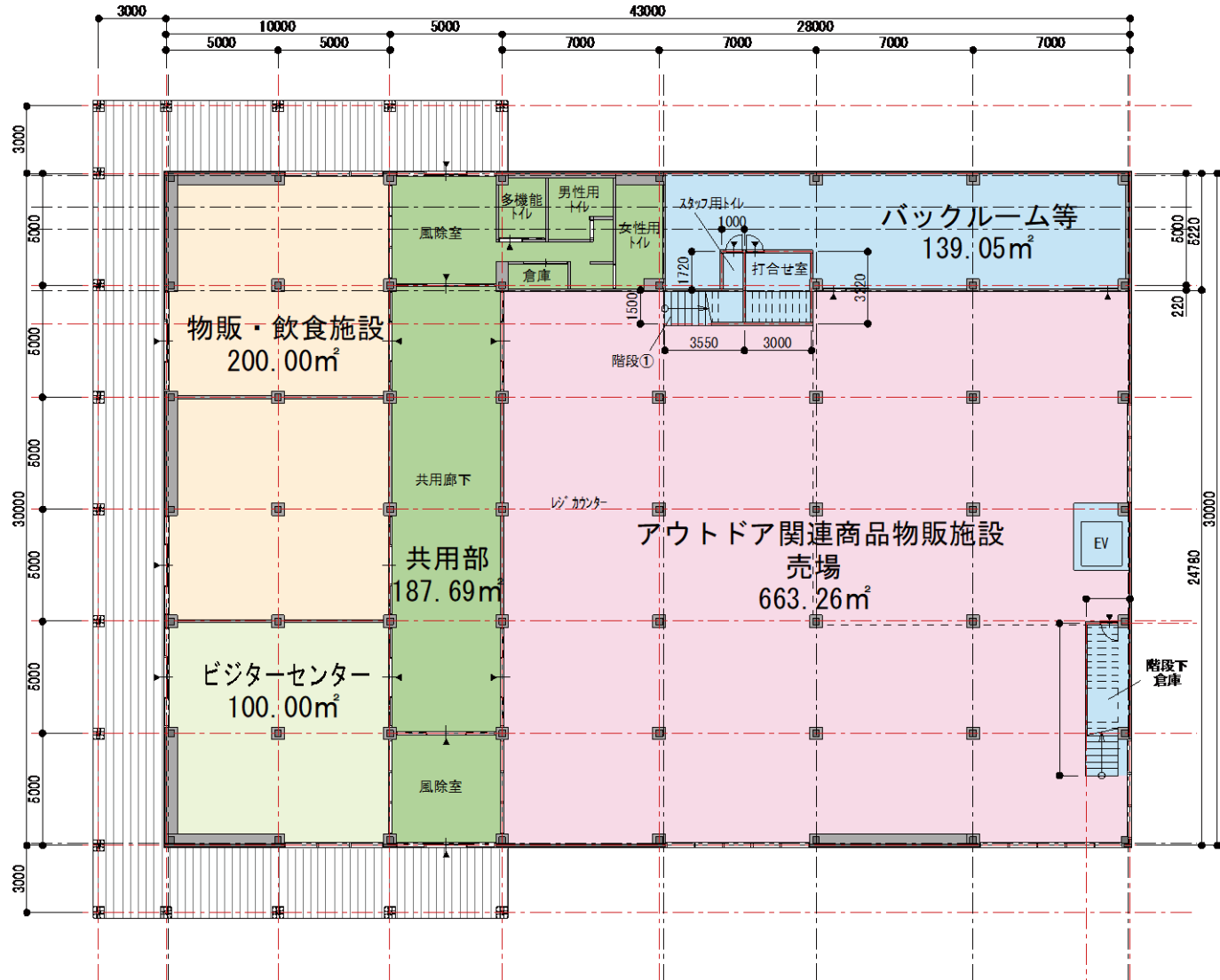
① 配置図



※今後設計の進捗により図面は一部変更となる可能性があります。

4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

② 平面図 1F

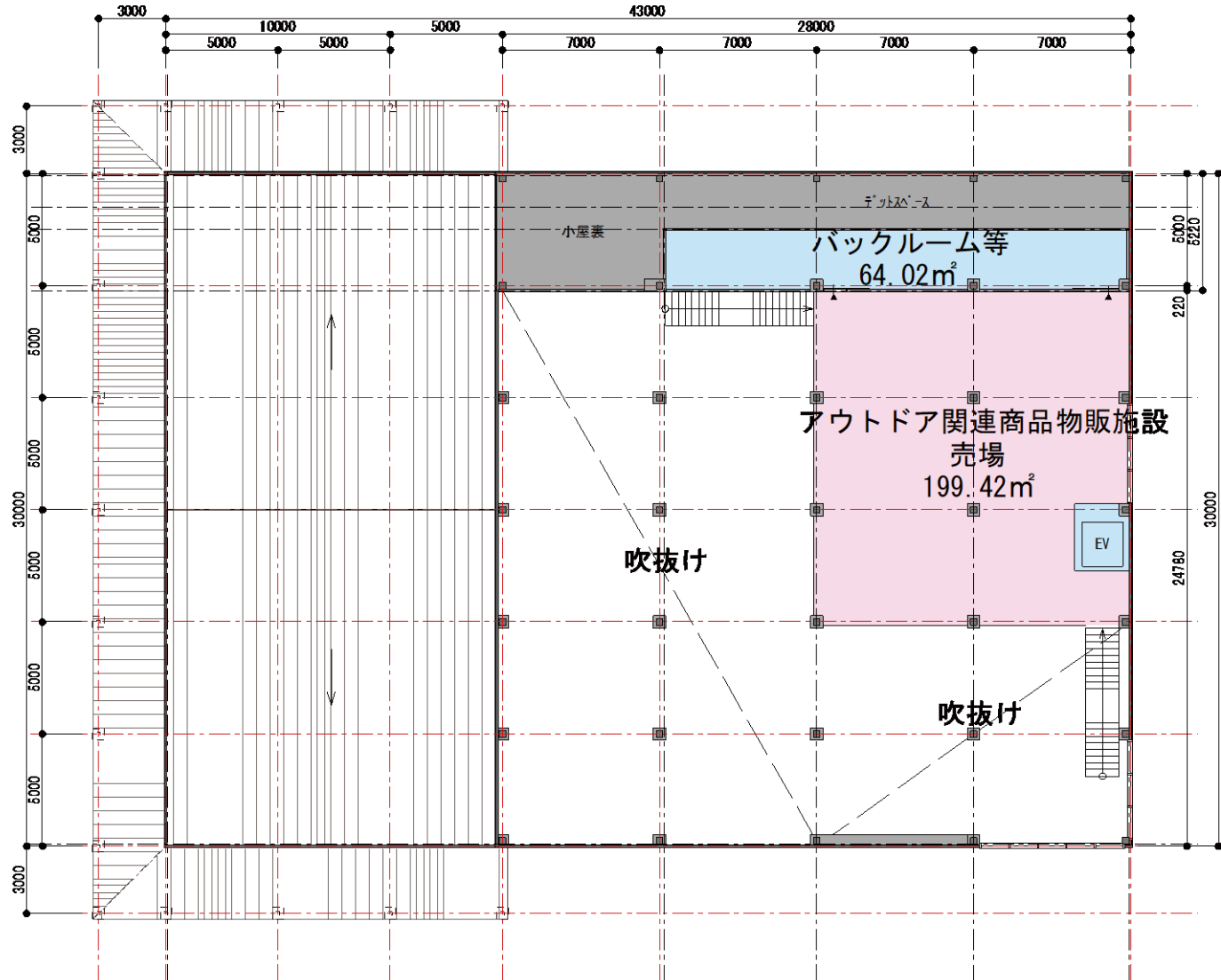


1階平面図

※今後設計の進捗により図面は一部変更となる可能性があります。

4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

② 平面図 2F

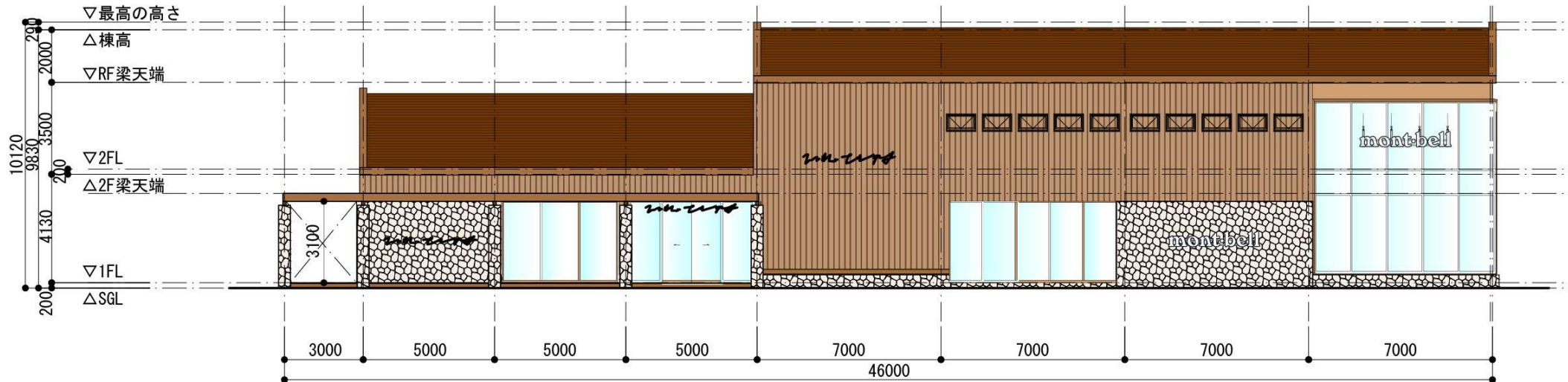


2階平面図

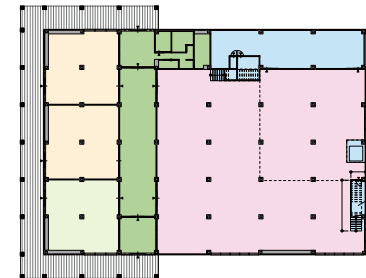
※今後設計の進捗により図面は一部変更となる可能性があります。

4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

③ 立面図 西側



[西側立面図]

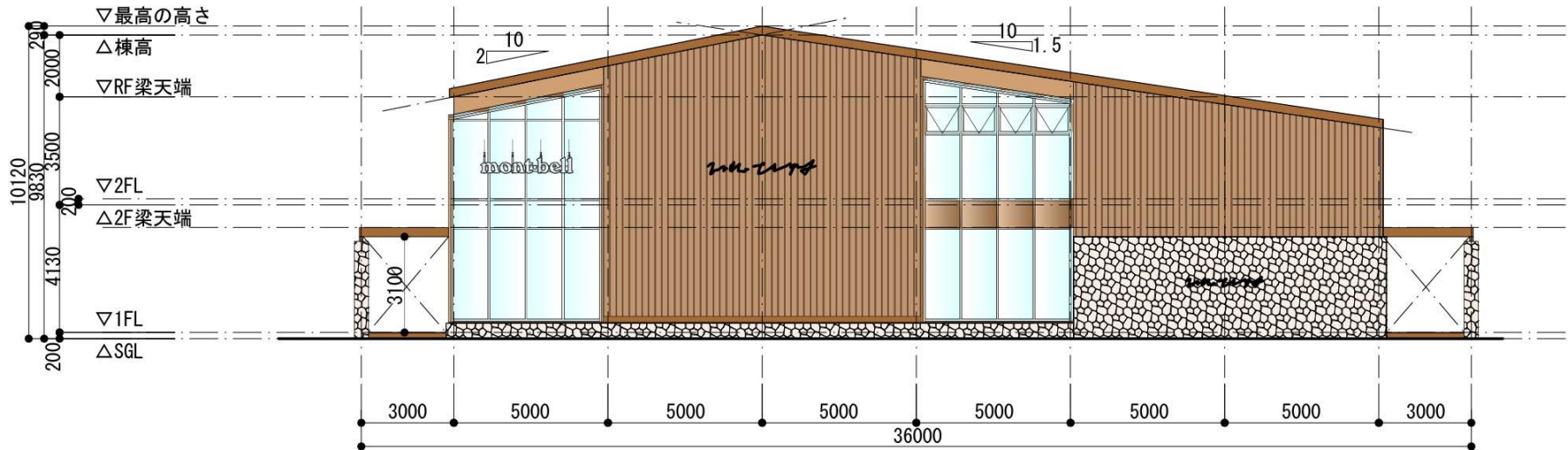


※今後設計の進捗により図面は一部変更となる可能性があります。

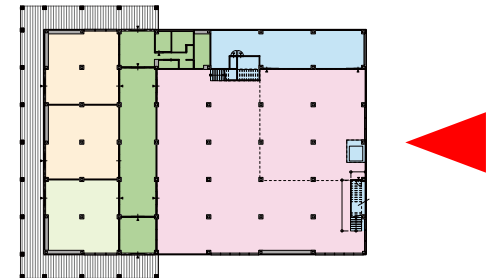


4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

③ 立面図 南側



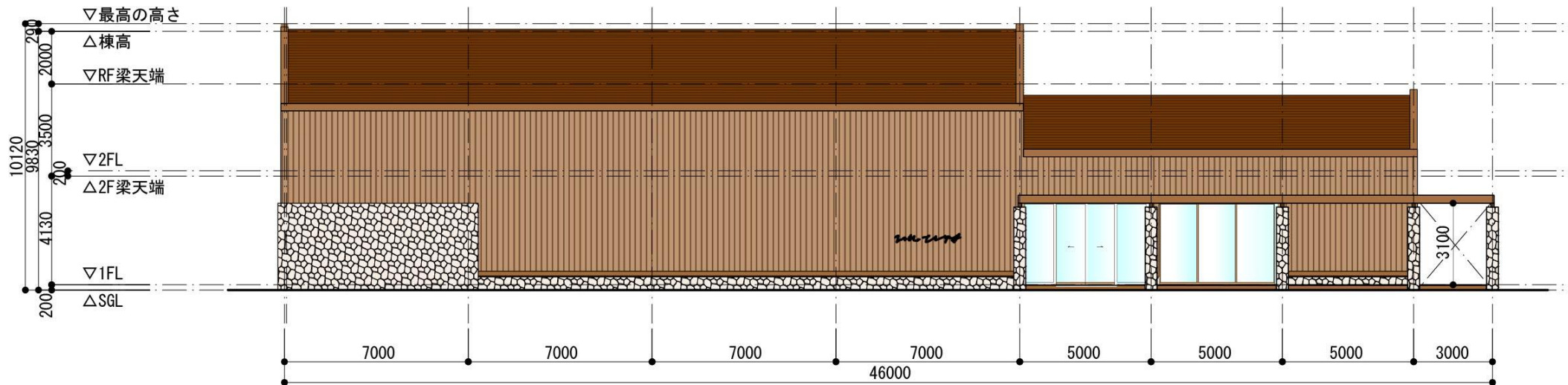
[南側立面図]



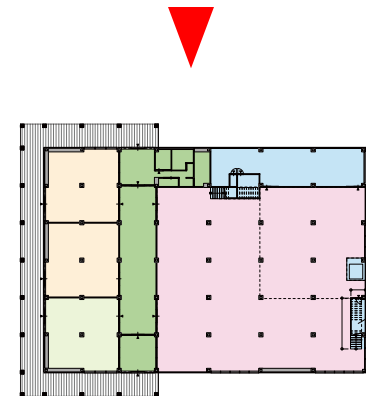
※今後設計の進捗により図面は一部変更となる可能性があります。

4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

③ 立面図 東側



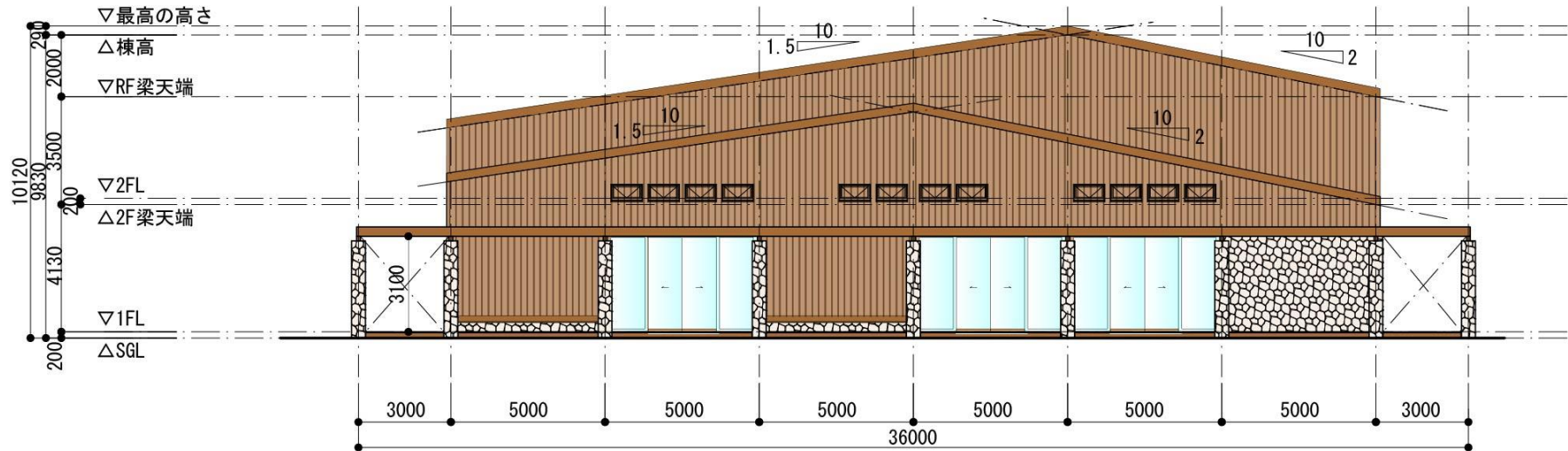
[東側立面図]



※今後設計の進捗により図面は一部変更となる可能性があります。

4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

③ 立面図 北側



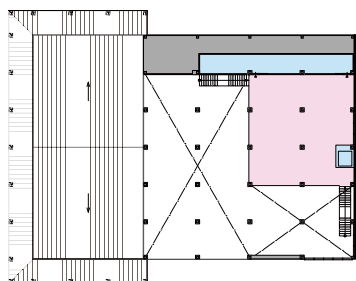
[北側立面図]



※今後設計の進捗により図面は一部変更となる可能性があります。

4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

④ 面積表



区分			面積	
			m ²	坪
1F	アウトドア関連商品 物販施設	売場	663.26	200.64
		バックルーム等	139.05	42.06
	ビジターセンター		100.00	30.25
	物販・飲食施設		200.00	60.50
	共用部（廊下・トイレ等）		187.69	56.78
1F小計			1,290.00	390.23
2F	アウトドア関連商品 物販施設	売場	199.42	60.32
		バックルーム等	64.02	19.37
	2F小計		263.44	79.69
1F・2F 合計			1,553.44	469.92
アウトドア関連商品 物販施設 1F・2F合計		売場	862.68	260.96
		バックルーム等	203.07	61.43
		合計	1,065.75	322.39

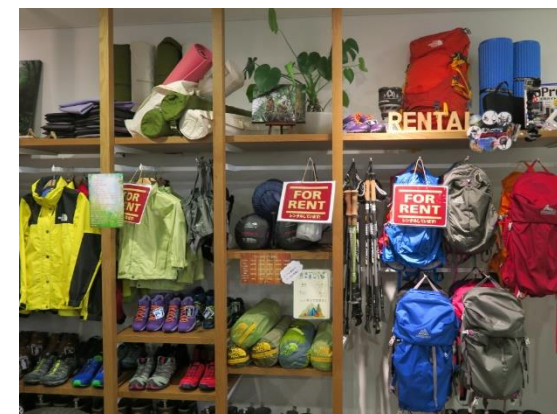
※今後設計の進捗により面積は一部変更となる可能性があります。

4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

⑤ 拠点施設の機能、役割

<ビジターセンター>

- ビジターセンターは、ワンストップで留萌市及び留萌管内のアウトドア、キャンプ、サイクリングなどの情報を提供します。また、多言語対応や、観光客の滞在時間を延長させるような観光情報や体験商品などの紹介も行います。
- アウトドア・アクティビティを実践する事業者、団体などとの連携や、ツアーデスクとしての予約手配、アウトドアヴィレッジ内や周辺エリアなどで楽しめるレンタル用具の提供や、アウトドア関連商品物販施設内の売場で購入可能なアウトドア用品の紹介など、来訪者のアウトドアニーズに対応できる体制を整えます。
- 観光地域づくり法人(DMO)の設立を視野に、ツアー造成やガイドの養成、ビジターセンターを拠点に市内、周辺地域への送客、モンベルとの連携による商品開発や都市部からのワーケーション受入などの取り組みを進めます。



4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

⑤ 拠点施設の機能、役割

<ビジターセンター>

気軽に取り組めるアクティビティやMOC(モンベル・アウトドア・チャレンジ)イベント例として、下表に示すような企画が考えられます。ビジターセンターでは、留萌管内の町村と連携し、これらのアクティビティを発信・提供していくことで、アウトドアヴィレッジを拠点に周辺地域へ広範囲に送客する役割を担うことが期待されます。

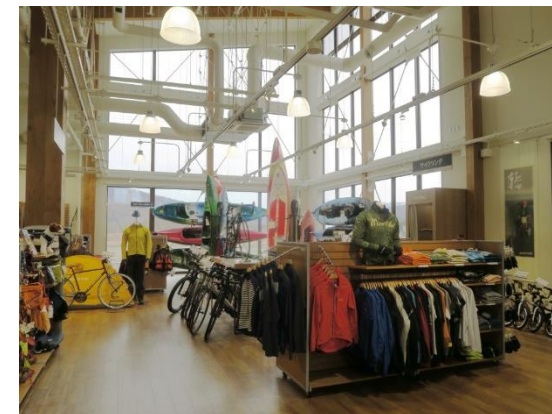
アクティビティ	留萌市内	留萌管内
トレッキング	マサリベツ望洋の森、るるもっぺ憩いの森	暑寒別岳登山、増毛山道トレッキング
サイクリング	留萌市内ポタリング、留萌川サイクリングルート	オロロンライン・サイクルルート(北海道サイクルツーリズム推進のサイクルルート)
パドルスポーツ	カヤック、SUP体験(留萌ダム、浜中・瀬越海岸)	天売島シーカヤック、天塩川ダウンリバー
キャンプ	黄金岬海浜公園、神居岩総合公園、ヴィレッジエリア(試験開放)	初山別 天体観測&キャンプ、天売島カヤック&キャンプ
自然観察	バードウォッチング(るるもっぺ憩いの森)	天売島バードウォッチング 焼尻島フラワーハイキング
スノーシュー	スノーシュー体験(マサリベツ望洋の森、るるもっぺ憩いの森、礼受牧場)	天売島スノーシュートレッキング
ロゲイニング	市内周遊、森林、アウトドアヴィレッジなど	

4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

⑤ 拠点施設の機能、役割

<アウトドア関連商品の物販施設>

- アウトドア関連商品の物販施設は、約900㎡と道内最大級の面積を有し、季節に応じたアウトドアを身近に感じ、アウトドアヴィレッジ内での遊びはもちろん、機能性の高い衣類などを仕事や生活に取り入れるためのフルラインナップ型で、本格的なアウトドアユーザーだけではなく、幅広い年齢層が利用できる商品構成となるよう、計画します。
- 日頃からの防災意識を高めるため、モンベルが開発した高機能な防災用品や非常食など、災害時を想定した商品ラインナップを紹介するコーナーのほか、防災備蓄など包括連携協定に基づいた事業についてモンベルと協議していきます。
- 物販施設内では、モンベルスタッフによる留萌市及び留萌管内のアウトドアの魅力や遊び方の情報発信、子どもたちが実際にテントや寝袋、ライフジャケットなどを見て、触れることで、アウトドアへの興味や遊びの要素が溢れる店舗構成とします。また、吹き抜けの開放感と海に面した大型ガラス窓から、留萌港での釣り客や、日本海に沈む夕陽を望むことができます。



4. アウトドア・アクティビティ拠点施設基本計画

⑤ 拠点施設の機能、役割

<物販・飲食施設>

- ビジターセンターやアウトドア関連商品の物販機能が一体となって、道の駅利用者の利便性向上を図り、公園の賑わいや憩いの場となる新たな集客機能として、約200㎡を確保し、アウトドアヴィレッジのコンセプトに合った物販・飲食店舗を併設します。
- 店舗の運営事業については地元事業者を含めた多様な事業者を対象に今後公募を予定しますが、公募条件などを検討するため、出店意向に関するサウンディング調査を実施し、アウトドアヴィレッジのコンセプトに合う店舗の導入に向けた検討を進めます。
- 地域の一次産業者との連携による直売所機能や、ヴィレッジエリアの芝生広場などで楽しめる手軽な軽食や浜焼き食材の提供など、地域性やアウトドアヴィレッジと親和性のある物販・飲食施設の誘致を目指します。



5. 概算事業費

① アウトドア・アクティビティ拠点施設整備 概算事業費

	数量	単価 千円/m ²	金額 百万円	消費税 百万円	合計 百万円	年次
本体工事	1,553 m ²	670	1,041	104	1,145	R7
造成・外構・駐車場工事	1 式	—	84	8	92	R7~8
水道工事	1 式	—	31	3	34	R7~8
合 計			1,156	115	1,271	

※今後設計の進捗及び経済状況の変化により事業費は変動する可能性があります。

5. 概算事業費

② 整備手法・財源

拠点施設整備については、公設民営方式により市施設として整備します。

財源については、国補助(地方創生拠点整備交付金など)や、道補助(地域づくり総合交付金)のほか、起債、ふるさと応援寄附金など、可能な限り財源確保に努めるものとします。

また、本プロジェクトに対し、市外企業の参画を高め、企業版ふるさと納税により支援を募るとともに、JRまちづくり資金などを活用して、さらに市の負担を軽減する予定です。

事業費見込

約12.7億円(前ページ)

※市の実負担見込

約3.4億円(最大)

<財源内訳>

国補助(基本1/2) 地方創生拠点整備タイプ	6.0億円
起債(補正予算債)、応援基金	6.7億円

6. 拠点施設の管理・運営方法

① 管理・運営主体について

船場公園管理棟や屋内交流・遊戯施設「ちゃいるも」などの「道の駅るもい」施設は、道の駅条例に基づき、令和5年度から指定管理運営へと移行しました。

現在は、留萌観光協会が指定管理者として、留萌市の観光の拠点として市や管内の観光情報の集約、発信のほか、施設を利用した飲食、特産品の開発、提供など一体的な管理運営を行い、アウトドアヴィレッジるもい構想の実現に向け、道の駅を拠点とした観光地域づくりを実践しています。拠点施設開業後は、現在の道の駅に拠点施設も加えた、アウトドアヴィレッジ全体での管理運営とすることを想定します。

モンベルは、これまでの全国での地方創生やアウトドアに関する豊富な知見を有していることから、モンベル会員への情報発信や都市部企業をはじめとした誘客、地域の新たな雇用の創出などが期待されます。

また、アウトドア関連商品の販売などを通じ、本格的なアウトドアユーザーだけでなく、初心者やアウトドアに馴染みがなかった層へのアウトドアの啓発・紹介、情報の発信、アウトドア観光の実施、野外活動MOC(モンベル・アウトドア・チャレンジ)など、今後観光地域づくり法人(DMO)とモンベルとの連携・協力の元、様々な活動を展開していきます。

6. 拠点施設の管理・運営方法

② ランニングコスト(見込み)







各テナントから面積に応じた利用料を徴収するとともに、拠点施設に係るランニングコスト(下記試算値)は、按分し、テナント事業者で賄うことを基本とします。


項目	試算値
電気料金	17,890 千円/年
プロパンガス料金	3,270 千円/年
上下水道料金	550 千円/年
エレベーター保守点検料	100 千円/年
合 計	21,810 千円/年

- 施設の空調はすべてエアコンと想定しています。
- 1日当たりの来客者数によって試算値は変わります。
- エレベーター保守点検料は契約形態によっても変わります。
- 共益部分の負担については、テナント利用料などで賄うことを想定しています。(テナント料は算定中)

7. 事業スケジュール

アウトドア・アクティビティ拠点施設整備スケジュール

	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
基本計画等				
地質調査・ 測量調査				
実施設計				
本体工事				
開業準備				
外構工事				



8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

① 地域への効果の最大化のイメージ

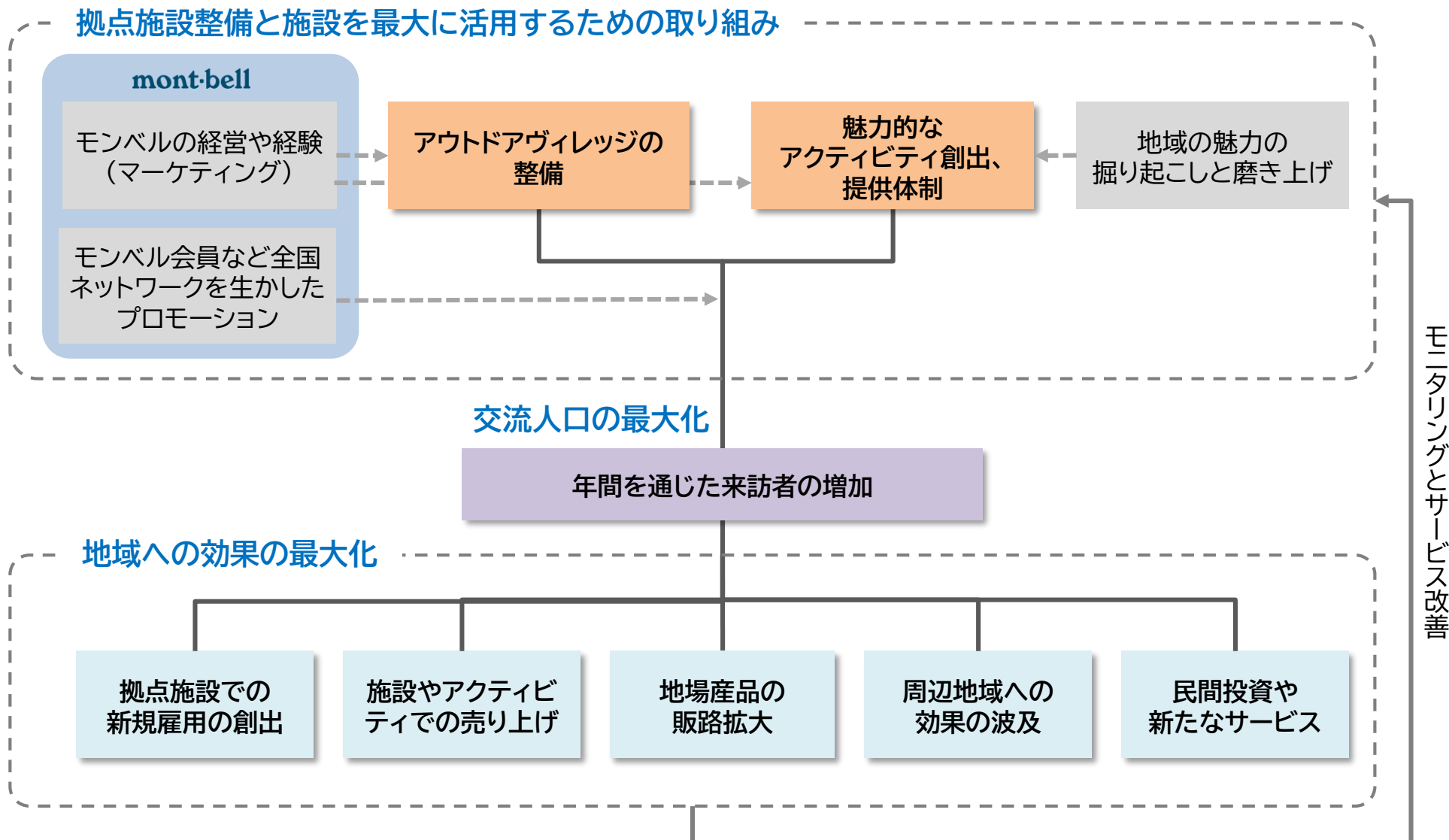
アウトドアの一大拠点形成と地域の魅力の掘り起こしや磨き上げにより、拠点施設を最大限に活用することで、年間を通じた交流人口の増加に繋がります。

また、旧留萌駅跡地周辺エリアと隣接した道の駅を一体に捉え、拠点施設からの人の流れを誘導し、民間事業者による新たな投資やサービスを生む意欲を喚起し、地域経済の活性化を目指します。

道内外から来訪者による経済循環が広範囲に及ぶものと期待されます。単に拠点整備だけでなく、道の駅と連携し、市内外の施設の情報をワンストップ集約、発信することにより、地域への効果の最大化を目指します。

8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

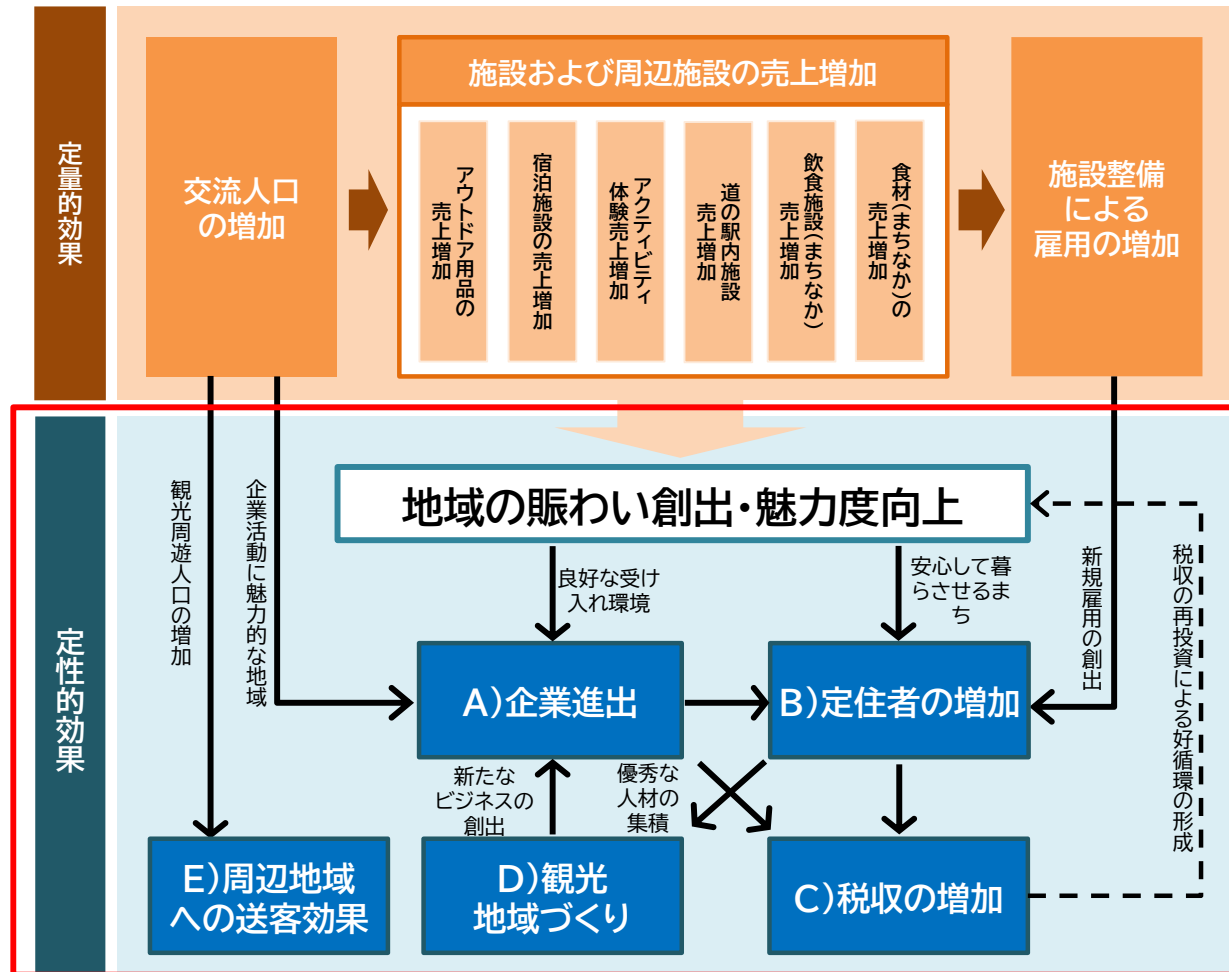
拠点施設整備による効果の発現イメージ



8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

② 定性的効果の整理

アウトドアヴィレッジるもいの波及効果は裾野が広いと考えられ、効果の発現が想定されるA)～E)の項目について効果の定性的な整理を行いました。



8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

A) 企業進出

「道の駅るもい」におけるアウトドアヴィレッジるもいの整備によって、交流人口が増加し、アウトドア分野や観光分野などの新しい観光需要が発生することが想定され、このような新たな需要を取り込み、来訪客のニーズに合わせた新たな企業、民間投資が、道の駅るもい周辺エリアに進出することが期待されます。

アウトドア関連企業



キャンプやその他のアウトドアアクティビティを目的とした観光客が増えることから、アウトドア用品の購入やメンテナンスにおける需要が増加します。また、手ぶらで気軽に仲間や家族と落ち着いたグラマラスな時を過ごす「グランピング」施設なども需要が高まっており、アウトドアヴィレッジ内での民間参入によるキャンプ施設整備など、相乗効果が期待できます。

ワーケーション



都市部企業におけるワーケーションでの滞在を呼び込むことにより、コワーキングスペースの提供やカフェ・飲食に関連する企業の増加が期待されます。また、住環境とワーキングスペースが両立するゲストハウスなどの簡易宿泊施設などの進出も期待されます。

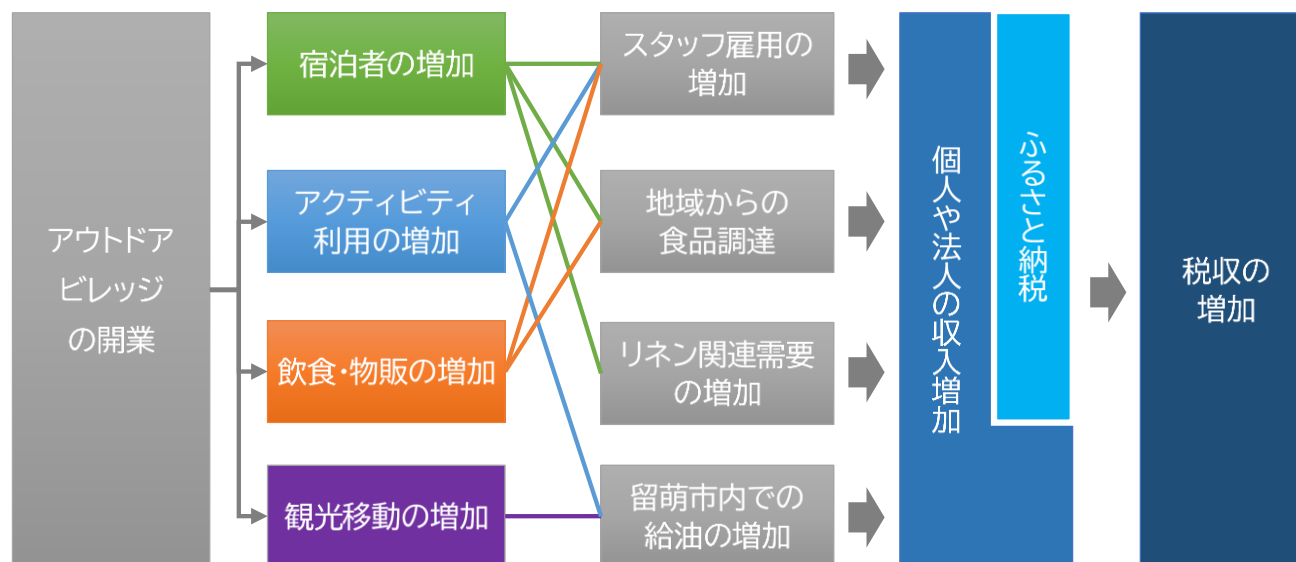
8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

B) 定住者の増加

開業に伴い、施設運営のために必要となる地元雇用が新規に創出できます。また、アウトドアヴィレッジるもいの整備に伴う新規企業の進出によっても雇用の増加が期待されます。雇用の増加は安心して暮らせる生活基盤を市民にもたらすことにより、留萌管内の定住者が増え、人口増加効果が発現すると期待されます。

C) 税収の増加

施設スタッフの新規雇用や周辺施設の消費の増加から雇用者の所得が増加し、市内経済への還流、留萌市の税収の増加が期待されます。また、ふるさと納税の新たな返礼品開発など、ふるさと納税額の増加や、留萌市での観光消費の拡充、関係人口の創出なども期待されます。



8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

D) 観光地域づくり

開業に伴い、アウトドアや観光分野に精通した人材や情報が地域に集積され、地域の新たな産業創出につながることを期待されます。

これまでの公的補助を財源とした非営利的な観光の側面から一步脱却し、観光商品の造成などにより、「稼ぐ観光」を志向しながら、持続的かつ変化や観光ニーズに柔軟に対応した「観光地域づくり法人(DMO)」の設立により、地域マネジメントを行う機運が醸成され、道の駅るもいを拠点に、以下の取組へと波及することが期待できます。

- 例) ○観光地域づくりによる多様な関係者の合意形成
- 各種データなどの継続的な収集・分析、データに基づくブランディングの策定
- 地域の魅力の向上に資する観光資源の磨き上げや域内交通を含む交通アクセスの整備、多言語表記などの受入環境の整備などの着地整備に関する地域の取組の推進
- 関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組みづくり、プロモーションなど

E) 周辺地域への送客効果

観光周遊人口の増加を誘発し、施設近隣に限らず、留萌管内の観光地における送客効果をもたらすことが想定されます。道の駅るもいやアウトドアヴィレッジるもいと管内の町村の道の駅と連携した情報発信を行う事で、管内の町村への効果波及が期待されます。

8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

市への間接的効果例

- 新しい観光需要の発生により、来訪客ニーズに合わせた新たな企業、民間投資の進出が期待。(小清水、南富良野ではセコマの店舗設置)
- 市内で働きながらアウトドアライフスタイルを好む移住者の増や、愛好者目線でのアウトドアゲレンデの開発促進。
- 留萌管内、道の駅エリアの魅力・コンテンツ・アウトドアイメージ、認知度の向上。
- 観光周遊人口の誘発と、留萌管内への送客効果により管内の町村への効果も波及。
- 新規雇用者による地域での消費活動
- 新規雇用による生産人口の増加

8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

③ 定量的効果の整理

1)開業後の道の駅の入込(予測)

他施設の事例を参考に、拠点施設が開業した後の道の駅全体の入込を算出します。

	道の駅るもい		他施設
	令和4年度	拠点施設開業後	
来場者数	約33.3万人 (実績)	約46.6万人 (予測)	約22.5万人 (対前年比140.9%)

1.4倍増
(他施設と同程度)

新規5事業、新規雇用24名(うち移住者13名)

2)開業後の道の駅るもい既存店舗の売上と市内への経済波及効果(予測)

道の駅既存店舗の売上予測と、北海道開発局「平成23年北海道内地域間産業連関表」を用いて、市内への経済波及効果を分析します。

	令和4年度	拠点施設開業後
道の駅全体の来場者数(年間)	約33.3万人	約46.6万人
道の駅るもい既存店舗の売上 (直接消費)	約0.9億円 (特産品0.6億円、飲食0.3億円)	約1.3億円 (特産品0.8億円、飲食0.5億円)
市内への経済波及効果 (間接消費)	約1.3億円 の市内生産誘発効果(1次、2次)	約1.8億円 の市内生産誘発効果(1次、2次)

※拠点施設開業後の売上予測については、令和4年度に基づき設定した、現状の購買率(特産品15%、飲食19%)、客単価(特産品1,280円、飲食600円)をベースに、集客増を反映して計算

8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

3) 拠点施設の売上と市内への経済波及効果(予測)

道の駅全体の入込をもとに拠点施設の売上予測と、北海道開発局「平成23年北海道地域間産業連関表」を用いて、市内への経済波及効果予測を算出します。また、下記に加えて、ビクターセンターにおけるレンタル収入などの売上や物販・飲食店舗の売上も見込まれます。

	拠点施設
	アウトドア関連商品物販施設
道の駅全体の来場者数(年間)	約46.6万人
売上予測(直接消費)	約1.7億円
経済波及効果(間接消費)	約2.1億 の市内生産誘発効果(1次、2次)

※他施設を参考に、購買率4%、想定客単価9,000円と設定し、算出

- 先述したとおり、拠点施設開業後、道の駅全体の来場者増により、道の駅内既存店舗の売上増や、仕入れ元の市内事業者の売上、生産誘発効果といった市内への経済波及効果も期待できる(商品ラインナップの充実によりさらなる消費効果も期待)
- 道の駅からの来訪者増による市内消費の拡大(市内ガソリンスタンド、飲食、小売店など)
→ただし、効果実現にあたっては、売上額確保に向けた営業努力や、商品訴求力の向上、地域の魅力化など、自らが地域の利益を生み出す取り組みが不可欠

8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

4) 定量的効果のまとめ

- 「道の駅るもい」への集客効果(約1.4倍の46.6万人)により、道の駅内での直接的な消費効果として、現行0.9億円→1.3億円(地域内への誘発額は1.8億円(既存施設ベース))が見込まれ、仕入れ元の市内事業者の売上、生産誘発効果にも繋がります。
- 拠点施設のアウトドア関連商品物販施設で1.7億円(地域内への誘発は2.1億円)の売上、さらに新設されるビジターセンターや飲食・物販店舗の売上も見込まれることから、他地域において新規雇用が24名程度創出されたのと同様に、留萌市でもこれらが雇用財源となって地域定住化にも繋がります。



地域にもたらす効果

⇒ 年間経済効果額は3.9億円以上と推計されました

今後、アウトドアヴィレッジ内での宿泊・滞在機能が整備されていけば、さらなる直接効果額の増加や周辺への購買効果の拡大が期待できます。

8. アウトドア拠点整備により期待される地域への波及効果

④ 企業と地域との共創、政策連携

集客に伴う経済的効果のみならず、企業が持つ価値を共有し、地方の魅力づくりに向けた様々な展開が期待できます。

- 全国113万人のモンベルクラブ会員への情報発信やプロモーション手法の確立へ（老若男女問わず、本格的なアウトドアユーザーだけではない愛されるブランド）
- 「ものづくり」のアイデアから地域課題の解決へ（厳寒、豪雪、防災、海難事故防止など）
- 自然保護、環境意識、子どもの生きる力を育む新たな教育へ（自然体験、野外活動など）
- 新たなイベントなどの誘致やふるさと納税での連携へ（フレンドフェア、モンベルふるさと納税など）



留萌市若手職員による政策研修



フレンドエリアるもい



モンベルふるさと納税



フレンドフェア



キッズチャレンジ